

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

| | |
|---|-------------------|
| 氏名： 伊藤 雅之 | 提出日：平成 24年 9月 27日 |
| 東南アジア研究所における職名： 助教 *右記の該当する職位に○をつけて下さい。(講師・ 助教 ・助手・ポスドク・博士課程学生・修士課程学生・学部学生) | |
| 派遣先の研究機関等(調査を実施した国名・機関名(日本語で記載)及びカウンターパート名)： インドネシア共和国/タンジュンプラ大学/湿地の人と多様性センター/アンシャリ・グスティ教授 *派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所○をつけてください。(大学 研究機関・企業・その他) | |
| 派遣先の研究機関等での職名： | |
| 派遣期間： 平成 24年 9月 16日 ~ 平成 24年 9月 21日 (派遣日数： 6日) | |
| 研究活動等の主な内容(該当する番号に○をつけてください。複数可) ① 究・実験 ② フィールドワーク ③ セミナー ④ インターンシップ ⑤ サマースクール等の講習 ⑥ 学会出席 ⑦ 単位取得等 ⑧ その他 | |
| 研究活動の主な領域(該当する番号に1つ○をつけて下さい。) ① 人文学 ② 社会科学 ③ 数物系科学 ④ 化学 ⑤ 工学 ⑥ 生物学 ⑦ 農学 ⑧ 医歯薬学 ⑨ 総合領域 ⑩ 複合新領域 | |
| 派遣の概要(500~700字程度) インドネシア・カリマンタン島、ポンティアナックにあるタンジュンプラ大学にて、同大学と北海道大学、本学の共催で行われた国際ワークショップ「International Workshop on an Assessment of Wetland Change in West Kalimantan Province: Does It Enhance Sustainability?」に参加し、泥炭地の物質循環や生物多様性に関する国内外の研究者からの発表を聞き、さらに他の講演者や現地研究者と今後の研究の連携について打ち合わせを行った。 また、現地研究者とともに、これまでに農学研究科とともに温室効果ガス観測などを行っている、泥炭湿地林サイトを視察し、測器の調整などを行うとともに、今後観測を始めるための新たなサイト探しをおこなった。 | |
| 事業に係る研究成果(500~700字程度) 今回の派遣は、現地研究者と今後の共同研究について打ち合わせる事、新たな観測地点の選定を目的とした。とくに、インドネシア、中カリマンタンで精力的に観測を進めている研究者と共に、サイト訪問をできたことで、様々な有益な情報の交換や、今後の協力体制について意見交換することができた。また、ワークショップは、タンジュンプラ大学、北海道大学と京都大学の共催で行われた。主目的は西カリマンタンの泥炭湿地利用の持続可能性について評価することで、ブルネイの泥炭天然林での観測例から、人為活動の影響で劣化した泥炭地における観測例まで最新の研究結果が多く発表され、有効な情報収集ができた。今後も、現地の林業会社の管理する泥炭地で新たな水・物質循環研究を始める予定のため、本若手派遣プログラムで訪問することができて、非常に有意義な成果が得られた。 | |